

前關東軍特務機關長

A 1 10

土肥原陸軍少將との會見記録

一九三二年五月三日
在長春日本領事館

土肥原將軍はハルピンを五月一日に出發し、リットン調査團が長春にゐると聞き、それとの會見の機會を得んことを切望したとの説明を以て會見を始めた。

リットン卿：私達は先づ第一に將軍の御進級に對して御喜びを申し上げます。

土肥原將軍：どうもありがたうございます。
リットン卿：我々は貴下とお會ひする機會を得た事を非常に嬉しく思ひます。

貴下が今ハルピンから歸つて來られた許りであると承知してをります。

土肥原將軍：さうであります。

リットン卿：あちらの状態は如何ですか。

土肥原將軍：二月五日の騷擾の後には状態は靜かになり、全住民は平常通りに各々の仕事に従事して居ります。然し町の近くや都市の週邊では尙騷擾や敗殘匪賊等によつていくらかうるさい事が起つてゐます、田舎でも若干の地方は騷擾による影響を受けました。匪賊は大

抵百名乃至五百名の小集團ですが二千名乃至三千名の大集團も實際あり、それは武器を携行してをります。

リットン卿：將軍のおつしやりたい事はそれだけですか

土肥原將軍：さうであります

リットン卿：私達は將軍が支那で非常に長い經驗を持たれ、この問題に關しては權威者であり、又、最近の諸事件では非常に大切な役目を演ぜられたことを承知して居ります。それで私達は滿洲の現在の状況並に將軍が活躍された諸事件の原因に關して將軍に話していただけることは何でも御聞きしたいと思ひます

土肥原將軍：何か特殊な點ですか

リットン卿：順を追つてお話を聞きたいと思ひます。私達は將軍が九月十八日の事件直後に奉天の市政を引き継がれたことを承知してゐます。當時の状況を述べて戴けませんか。どんな處置をとつたか等々について

土肥原將軍：奉天事件勃發の時私は他の仕事を命ぜられて東京に行つて居り、奉天への歸途にありました。私は事件の最初のニュースを安東近くで知り奉天には翌日着いたのであります。私が奉天に到着した時には夜の間に起つた重要な軍事的状態は實際に終了してゐました。若干の小部隊は逃走する軍隊を追撃中でありました。丁度その時司令部の參謀が旅順から到着したのであります。そして、此の特

殊な状況に於て、私は軍事情報任務に従つてをりました。それは公表關係の軍事情報任務であり私はその課長に任命されたのであります。その事件に續く状態は市の市政當局の分離解散によつて絶望状態になりました。そこで軍當局が行動を起し、日本人の地方指導者に市政事務運営計畫に従事する様勧誘しました。然し之等の指導者を適當に働かせるようにするのは困難でありましたので之等の指導者と軍司令部から私に之等の仕事を統轄し市政活動に専心當るやうに要求されました。

市の支那側指導者が歸還し治安維持委員會が組織される迄約一ヶ月の間市政臨時機關が活動したのであります。私が此の職に在りました間、私の仕事は主として治安の回復と市民に安心感を與へて彼等の不安を除く事に向けられておりました。そして又事件の爲めに必要を生じた救濟事業を實行しました。委員會が活動を始めてからは私の仕事は全部委員會へ渡され趙欣伯博士が市長に任命されたのであります。

リットン卿：私は將軍が御自分の活動に關して餘りにも御謙遜し過ぎたおると思ひます。何となれば私はその月の末にはすべての事態が平和状態に戻り將軍自身仕事を他の人へ渡してよいと思つた程であつたといふ事を承知してゐるからです。

土肥原將軍：さうです、まあ治安の回復と住民に安全感を與へる爲め

に少しは御手傳ひが出来たかも知れませんが、財政状態は次第に回復し、銀行は殆んど正常に活動を始め奉天吉林鐵道も以前の通り動き始めました。一般状態は正常に服し、我々の仲間には治安維持の爲め組織された委員会と協力して市の状態を復舊する爲め働きました。彼等が市政事務を担当することが出来ることになりました。事變後市で我々は仕事全部を彼等に引渡したのであります。要人の多數や住民の中約五萬人が逃亡したが十月廿日迄には状態も次第に平常に服し、彼等の中の大部分は歸還しました、それで之は市の正常状態に服する徴候であると我々は見たのであります。そのうちに北支の状態が次第に我々の注意を惹く様になりました。といふのはその地方で張學良軍に使喚され利用された多くの徒黨が殘存して騷擾が起りつゝあつたのであります。そこで軍略上の視點から我々が天津駐屯軍と連絡を取るの必要があります。我が關東軍はその任務につき天津へ赴いたのであります。十月廿七日私は天津に着し十一月の末まで滞在し同月私は自分の仕事の報告をする爲め、東京の役所へ行つたのであります。東京の司令部に滿洲と北支の情況に關する完全な報告を爲し、その後奉天に歸還して一月一日にそこに到着しました。一月十二日私は再び天津に派遣され約一週間同地に滞在して奉天に歸つて参りました。私達はハルピンに小さな役所を持つておりました。一月廿六日私は任務を帯びてハルピンに行く

様に命ぜられました。私は一月廿七日そこに到着致しました。二つの吉林軍の間に戦闘が勃發致しました。一つは吉林の熙洽によつて指揮されてをり、北方から移動して丁超、李杜、兩將軍麾下の軍と衝突しました。戦闘はハルピン周廻で約十日間續きました。之等の二つの對立せる軍隊間の戦闘は日本人特に脅威にさらされた該地區の日本人に非常な不安を呼起しました。又同地方には多數の朝鮮人が居住して居り虐殺の危険に曝されて恐怖に陥つて居りました、ハルピン市民特に支那商人等の生命財産を防衛する様日本軍に對し繰返し要請を送つて來ました、又同時に在留日本人も同様目的で日本軍の來る事を繰返し要求したのであります。以上が騷擾によつて起つた状態でありました。日本人居留民は反日的な反吉林軍にとりまかれて、非常に困難な状態にあつたのであります。

日本軍は日本人居留民の生命財産を防衛する爲めに派遣せられ丁、李、兩將軍の軍隊からの反撃を受けました。

最後に戦闘後、支那軍は完全に壊滅し、北方に逃げました。しかし幸ひな事に市中では戦闘は起りませんでした。それで在留日本人四千名は無事であり、市の在留ロシア人、その他からも別に難しい問題はありませんでした。

リットン卿：私は將軍が十一月から一月迄の間の何時の事を云つてをられるのか、御伺ひしたい、又新國家を建設したいといふ現地の希望

を何時始めて知られたかを伺ひたい

土肥原將軍：二月初旬に吉林省に於て其の運動が注意を引きました。そして獨立宣言は先づ第一に吉林で發せられ次いで黑龍江省で發せられました。二月末頃には諸省で宣言が發せられ新行政委員會が諸省並にハルビン特別地區の要人等によつて組織せられました。吉林省知事熙洽、奉天省知事臧式毅ハルビン特別區知事張景惠、黑龍江省知事馬將軍等が集まり東北諸省行政委員會を組織したのであります。が、其の他滿洲各地に色々な自治政府が宣言を發しました。私は之等要人達が集り新しい統一政府樹立の計畫を以て諸種の自治省を結合して一つの中央行政組織形態へと統合するものと見てをりました。

リットン卿：新國家の元首として最後の皇帝を立てるといふ考へが最初に表明されたのは何時ですか。

土肥原將軍：十一月の十日か十一日頃天津の状況は險惡となり皇帝の身が危險に瀕しました。

そこで彼は密かに滿洲へ回つて天津を立つたのであります。之が當時の状況に對する私の見解であります。

私は長い間溥儀氏とは絶縁の間柄でありました。私は十月末に彼を訪問した事を記憶して居ります。

當時彼は色々な脅迫状を受けとつてをりましたそして彼は又贈物の

入った小包を受取りましたが、實際は中に爆弾が入つてをりました。之等の事は彼の身の安全が極度に危険に曝されてゐた事を示して居り又之が彼が天津から逃亡した主な理由だつたと思ひます。爆弾は十月始め送られたのであります。彼は私と會つた時に自分は神經過敏になつたと私に仄めかしました。

リットン卿：此の新しい地位の受諾に關して將軍は彼とその後交渉をなさいませんでしたか

土肥原將軍：彼の受諾とわ來滿とかに就ては私は何等の關係もありません。前に説明致しましたやうに私は他の場所で他の仕事に従事してをりその時以後彼に會つたのは昨日彼に暇乞ひに行つたのが最初であります。それは十月三十日に天津を出發して以後始めてであります

リットン卿：私がかういふ質問を致しましたのは將軍が溥儀を誘拐して滿洲へ連れて行き彼が新國家へ入るまでかくまつてゐたといふ事を支那で聞いたからであります。

土肥原將軍：それは全く間違ひであります。私は十月三十日に彼に會つて別段之といふ話もしませんでした。或程度彼を元氣づけようとしたのであります。そしてそれ以後昨日迄會はなかつたのであります。リットン卿：それではその時には彼が新國家の元首になるといふ様な事は話されなかつたのですか

土肥原將軍：私共は彼の身の危険とその安全といふ様なことに就ては議論しました。彼が彼の渡滿については何等話しませんでした。

リットン卿：そして將軍は彼が滿洲生活中その事については何も話されなかつたのですか

土肥原將軍：全く何の連絡も致しません。私は最初奉天に次いで天津に行き更にハルピンへ戻りましたので彼に會ふ機會がありませんでした。貴下が斯る誤つた情報を持つて居られるのは遺憾であります。それは宣傳であり全く事實に會はないことであります。

ハルピンへ参りましたから私自身多少それと同じやうな經驗を致しました。米國總領事ハンソン氏も支那人と同様な意見を持つてをられたのであります。彼は私が海賊の親玉であるかの様に考へてゐたやうでしたが次第に我々は親しくなり彼もそれ迄考へてゐた私といふ人間が想像と大分異つてゐる事を發見しました。

リットン卿：海賊ではなく唯元市長でせう。

アルドロヴァンデイ伯：若い皇帝は天津滯在中どんな取扱を受けたのですか。

土肥原將軍：彼は天津日本租界に住み元駐日公使の所有してゐた家に居りました。彼の生活は餘り恵まれてゐませんでした。

アルドロヴァンデイ伯：それはさうでせう。然し彼は天津で脅迫されませんでしたといふのはどんな脅迫を受けたのですか彼等はどんなことが起

るかを示して脅迫したのですか、どういふ意味の脅迫をしたのですか。

土肥原將軍：市から外へ出ると命が危いぞ等といふどこにでもあるやうな普通の脅迫状であります。そして私の記憶に誤りがないならば彼等は或便衣の暗殺者が彼を暗殺する爲めに派遣されるかも知れぬといふ様なことを言ひました。

リットン卿：然し我々は何故彼が脅迫されるのか或は誰にされるのか解りません。

土肥原將軍：例へば彼が奉天に歸還するといふ場合には脅迫者達は彼が市から出ない様にする爲め派遣されたのであります。

リットン卿：支那人達は彼が皇帝だったので再び政權を得んとするのを阻止しようと試みたのでせう

土肥原將軍：さうであります。彼は彼自身又は彼の部下によつて起される政治運動の爲めに疑を受けたのであります。

アルドロヴァンデイ伯：既に十月にですか、土肥原將軍：さうであります。之等の報導は既に十月の新聞紙上にも現れて居りました。

マツコイ將軍：將軍貴下は此國をあらゆるち旅行されそして多くの人々を知つてをられますし又我々は當地へ事情調査に来てゐることを知つて居られますからこれらの噂や風聞の解釋を得るのに會つて役立

つと貴下が御考へになる人々即ちハルピンの日支人に限らず第三國の特別な人々に會つてハルピンの様な場所で正當な事實を蒐集する爲めに何か示唆を我々に與へて戴けませんでせうか。

土肥原將軍：ハルピン市長鮑氏は貴調査團歓迎委員會の一員であります

が彼はハルピンの状況をお話出来る者の一人であります

マッコイ將軍：支那人は我々に彼は奉天に監禁され、將軍がハルピンへ彼を連れて行つて市長にしたのだと語りましたが事の真相はどうなのですか

土肥原將軍：その様な事は全くありません

一昨年鮑氏は何の理由もなく張元帥に逮捕され殆ど一ケ年間監禁されてゐたのであります。事變勃發後も彼は監禁されて居りましたので私は彼を解放する手助けをしました。何となれば私は彼が監禁される理由のない事を知つてをつたからであります。

その時以來彼は私の良友となり私は彼の非凡な性格と能力を知り、特別區知事張景惠將軍に紹介しました所張氏も亦彼の能力を認めそこで彼はハルピン市長の職を受諾するやうに勧められたのであります。彼を市長にしたのは私ではありません。

リットン卿：何時彼は釋放されたのですか。

土肥原將軍：十月初旬だつたと思ひます。

マッコイ將軍：何故彼は張元帥に監禁されたのですか政治犯罪ですか、

それとも何か、

土肥原將軍：それは政治的な理由であつたと思ひます、彼自身もその監禁の理由を知つて居りません。

彼はどうして自分が逮捕され監禁されたか自身で知りませんでしたもつとも當時奉天で政治的陰謀に何か關係して居た様ですがそれから東支鐵道總裁李氏は情報を集めるのに何かお役に立つてせう。

丁將軍は最初私の良友でありまして彼の生命財産がよく保護されることを私は保證しましたがいくらか恐れてをり私が彼に出で來いと勧めても出て來ませんでした。もう一人の李將軍は現在行方不明です。我々は彼が來訪し或る了解に達するやうに彼を招待致しましたマツコイ將軍：將軍は狀況がよくなりつゝあると思ひますかそれとも惡化しつゝあると思ひますか。

土肥原將軍：北滿の狀況は平和状態から遠いものであります。滿洲國政府に反する分子特に匪賊が多く居ります。彼等が騷擾の因をなしてゐるのであります。彼等が非常に危険であるとは思ひません。

マツコイ將軍：惡名高き馬將軍はどうなりましたか、私は彼が監禁されてゐるといふ事を讀んだのですが、

土肥原將軍：彼は反馬軍征伐の爲め黒河へ向ひました。それから彼は病氣の爲め休養をとると語りましたが、それ以來我々は彼に關する「ニュース」を聞きません、彼は事實病氣勝ちであります。

私は彼が全く病氣の時委員會の會合に出席してゐたのを記憶して居ります。彼は非常に胃が弱く又腸の不調に悩んでゐるのであります。東北諸省行政委員會が組織された當時には彼はその最も熱心を指導者の一人でありました。私はチ、ハルで馬將軍の省知事就任式に出席したのを覚えてをりますがそれは非常によく運びました。彼は訓示を行ひ且つ又彼が全住民の利益の爲めに職に就くとの宣言をしたのであります。彼は斯くの如く非常に熱心でありました。それから彼は四月初旬黒河に近い北滿へ行きました。それが以來姿を現はしません。彼がどうなつたか我々は知らないのであります。